

# 1. 評価結果概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	4171600176
法人名	有限会社 佑紀苑
事業所名	グループホーム 佑紀苑
所在地	杵島郡白石町大字福富3125番地2 (電話) 0952-71-7120

評価機関名	佐賀県社会福祉協議会		
所在地	佐賀市鬼丸町7番18号		
訪問調査日	平成21年3月30日	評価確定日	平成21年6月11日

## 【情報提供票より】(平成21年 2月28日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 15年 3月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	8 人
職員数	12 人	常勤	3 人, 非常勤 9 人, 常勤換算 3.5 人

### (2) 建物概要

建物構造	木造平屋建て
------	--------

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	実費 円	
敷 金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無		
食材料費	朝食	200 円	昼食	200 円
	夕食	300 円	おやつ	100 円
	または1日当たり 円			

### (4) 利用者の概要( 2月28日現在)

利用者人数	8 名	男性	1 名	女性	7 名
要介護1	3 名	要介護2	1 名		
要介護3	3 名	要介護4	1 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 81 歳	最低	71 歳	最高	90 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	カタフチ医院 ・ 白石共立病院 ・ まつお歯科
---------	-------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

<p>協力医院、郵便局、コンビニ等がすぐ近くにあり、のどかでありながら生活には便利な場所である。国道脇ではあるが騒音も気にならない程度である。看護師の資格を持つ職員が配置され、医療面での家族等の安心にもつながっている。また、職員同士がお互いを認め信頼し合い、入居者の穏やかな暮らしを支援している。</p>
--

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>「災害対策」の課題であった夜間を想定した避難訓練が行われている。地域住民の参加・協力を得た災害対策の更なる充実を期待したい。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>日頃のケアを振り返る良い機会と捉え、運営者、職員など複数で話し合っている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>入居者や家族にも順番で出席依頼をしている。事業所行事などを含む近況報告と、入居者の状態によっては地域での見守りのお願いなど、理解を深めてもらう良い機会となっている。また、外部からの意見は質の向上のためのチャンスと捉え、真摯に取り組んでいる。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>毎月の利用料を取って持ち込みとしているため、家族との会話の機会を作っている。また、電話による近況報告も頻繁に行ない、家族にとって話しやすい雰囲気作りにも努めている。普段の会話の中から想いを汲み取り、職員のミーティングを経て活かされている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地域の人々が気軽に訪問される関係までには至っていないが、事業所行事への誘いや散歩時などの機会を利用して顔なじみの関係作りにも努めており、更なる交流を期待したい。</p>

## 2. 評価結果(詳細)

( 部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「地域の中の一つの家族」という思いではあるが、理念は系列施設と同じものとなっている。	○	今後、更に地域と密着し関係を強化していく上でも、事業所独自の理念づくりも期待したい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	「やすらぎと安心の楽しい生活を支援します」の掲示が日常的に職員の目にも触れ、その理念が自然と意識付けられている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の行事等には参加したり、散歩の折のあいさつなど地域との交流に努めているが、地域住民との日常的な関わりを持つまでには至っていない。	○	地区の回覧板を利用したり、運営推進会議の充実などにより、事業所と地域の人々が支えあうような双方向の関係が築かれるよう、積極的な関わりづくりを期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は運営者や職員など複数で話し合い、日頃のケアを振り返る良い機会となっている。また、評価後は改善点を明確にし、サービスの質の向上につなげている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は3ヶ月に1度開催されており、報告や情報交換の場となっている。家族にも順番で出席依頼をしている。出された意見や要望はサービスの向上に活かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町からの支援や理解など必要なことも多く、月に1度は担当者と会っている。また、担当者が異動で代わっても積極的な関係作りを行っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月の利用料の支払いの際に金銭管理の報告など家族との会話が出来ている。また、電話による近況報告も頻繁に行われている。現在、休止中の苑便りも復活が検討されている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が自由に思いを言える雰囲気作りに努めている。家族等から出された意見等にはミーティングで話し合い反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	入居者にとって苑が日常と感じられる場になるように心掛けている。復職が見込める産休や育休には運営者が勤務に入るなどのフォローをしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員は段階に応じて研修を受講している。それらの報告はミーティングでの発表や、資料等が自由に閲覧出来るようになっている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣5施設との2ヶ月に1度の交流は、規模の大小はあるものの得るものが多く、また刺激も受け、サービスの質の向上へとつながっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	状況把握のために自宅を訪問したり、見学の折には家族が説明を受けている間、本人だけ苑内を案内し、家族と離れた時の様子をみるなど、徐々に馴染んでもらうための工夫をしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員には、支援する側、される側という意識はなく、人として共に過ごし、人生の先輩として教えてもらうことも多い。お互いの思いを感じ、心を寄せて支えあう関係が出来ている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で、思いや意向の把握に努めている。思いを理解するための言葉掛けや不安を取り除くためのスキンシップなど、ひとつひとつを丁寧に行っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居者が自分らしく暮らせるように、本人や家族の要望を重視した具体的な介護計画となっている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	計画の期間はあるが、状態の変化によっては家族との十分な話し合いの後、臨機応変な見直しを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族と相談し、通院の同行など柔軟に対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力医の他、入居前からのかかりつけ医での受診にも通院介助を行ったり、複数の医療機関とも関係を密にしている。受診時には日々のバイタル表を持参したり、相談しやすい関係にある。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合の指針や同意書があり、入居時に本人や家族の意向が話し合われている。これまでに看取りの事例はないが、重度化した場合は主治医と家族の間で意向の確認や見直しが行われている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	尊厳の厳守をモットーとし、声かけや接し方にも入居者の誇りやプライバシーを損なわない対応の徹底を図っている。また、個人情報の秘密保持も全職員が理解し守られている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな一日の流れはあるものの、入居者は居室や居間で思い思いに過ごしたり、隣接するカラオケ店へも出掛けるなど、職員のさりげない見守りの中で穏やかに過ごしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューは旬の物を取り入れるなど入居者とも相談しながら決めている。また、食材の買い物にも週3回程度は一緒に行き、調理には野菜を切ったりして参加してもらっている。食事介助を必要とする入居者はなく、個々に合ったゆったりとしたペースでの食事である。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	決められた入浴日はなく、本人の希望で一番風呂、または仕舞い湯など自由に選んでもらっている。入浴を嫌がる方に無理強いはいしていないが、言葉掛けや対応を工夫して入浴を促すこともある。脱衣場に暖房器具を置き浴室との温度差にも配慮している。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者それぞれの生活歴や趣味を把握し、調理手伝いや居間の掃除など、その方に合った役割をお願いしている。天気の良い日は急に思い立ってドライブに行くこともあり、桜や菖蒲、つつじと花を求めての外出も多く、良い気晴らしとなっている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	その日の体調や天候に応じて、日常的に散歩や買い物、あるいはドライブ等に出掛けている。隣接するカラオケ店への外出は楽しみ事のひとつである。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は見守りを徹底し、安全面に配慮しつつ鍵をかけない自由な暮らしを支援している。また、どうしても外へという入居者があれば傍らに付き添ってみたり、少し離れたところを歩いてみたりと本人が納得されるまで見守っている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の避難訓練を行っている。火災通報装置等で速やかに通報できるようになっており、また、関係機関への協力も働きかけているところである。	○	職員だけの誘導の限界を踏まえて、地域住民の参加や協力を得た訓練等の実施も期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養摂取や水分補給を画一的に行うのではなく、ひとりひとりに合った支援がなされ、大まかな把握は出来ている。また、インシュリン使用の入居者もいるため糖分チェックは全職員に周知徹底されている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間には柔らかい自然の光が差し込み、大きめの椅子やゆったりとしたソファが用意されている。台所からは茶碗を洗う音やおかずの匂い、季節の花々も目の前に見え五感を刺激しつつ居心地よく過ごせるように配慮されている。国道脇ではあるが車の騒音は殆どなく、どの共用空間も清潔で臭気もない。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が使い慣れたタンスや椅子が持ち込まれ、また、その配置についても本人と家族で決めている。馴染みの物の持ち込みに制限はなく、各居室はその方らしく穏やかに安心して過ごせる環境となっている。		